

小児科

■ スタッフ

科長		平山 雅浩
副科長		三谷 義英
医師数	常 勤	12 名
	併 任	4 名
	非常勤	12 名

■ 診療科の特色・診療対象疾患

1. 診療科方針

- 1) 当小児科の目標は（1）優秀な小児科医の育成と小児医学研究の推進、（2）小児科専門分野の充実と小児医療施設の特色作り、（3）地域の特性に応じた小児医療提供体制の整備・充実の3つであります。
- 2) 医学教育の充実、先進的医療の実施、地域医療への貢献はもちろんですが、未来ある子供達のために、優れた小児科医を育成し、安全で高度な小児医療を提供するとともに、国際的に認められる医学研究の成果を発信していくことを目指しています。

2. 主な診療対象疾患とその体制

- 1) 三重大学小児科では多岐にわたる小児科疾患のうち、主に血液疾患（白血病、再生不良性貧血、免疫不全など）、悪性疾患（神経芽腫、ウィルムス腫瘍、骨肉腫、横紋筋肉腫、脳腫瘍など）、循環器疾患（先天性心疾患、川崎病冠動脈障害、肺高血圧など）、新生児疾患（低出生体重児、合併奇形を伴う重症新生児など）、神経筋疾患（難治性てんかん、筋ジストロフィーなど）、腎臓疾患（慢性腎炎、腎不全など）およびその他の重症疾患を扱っています。
- 2) 当小児科では国立病院機構三重病院（感染症、アレルギー、腎疾患、他慢性疾患）および三重中央医療センター（周産母子センターNICU）と連携し、三重子ども病院群を形成し、それぞれの病院が専門分野を分担することで高度な医療サービスを提供しています。

■ 診療内容と診療実績

当院小児科では主に血液・悪性腫瘍性疾患、小児循

環器疾患、神経疾患、腎疾患及び新生児疾患を主に診療をしております。2024年の入院患者数は小児病棟389名、NICU 325名でした。

小児悪性腫瘍に関しては三重県内の血液悪性腫瘍は当院に集約して入院治療を行っています。2024年の小児血液腫瘍疾患の新規患者の内訳は、白血病3名（急性リンパ性白血病3名）、脳腫瘍2名、骨腫瘍1名、軟部腫瘍2名、神経芽腫・肝芽腫・腎芽腫がそれぞれ1名ずつでした。悪性腫瘍の治療は化学療法、放射線療法、外科的治療を含む集学的治療を他科との協力のもとに行っています。特に先進的医療として造血細胞移植を行っており、2022年からはキメラ抗原受容体遺伝子導入T細胞（CAR-T）療法も施行可能となりました。

循環器疾患に関しては、日本小児循環器学会専門医修練制度の開始と共に県内の心臓カテーテル検査及び治療は当施設に集約し、2010年104件、2011年141件、2012年131件、2013年130件、2014年113件、2015年122件、2016年116件、2017年119件、2018年136件、2019年156件、2020年142件、2021年115件、2022年124件、2023年121件、2024年135件行っております。特に高度な心房中隔欠損カテーテル閉鎖術に関しての経験も豊富で、これまでに100例以上施行し全例成功しています。2019年に、大学内のニューロハートチームと共同で脳卒中2次予防の卵円孔閉鎖術、2020年から未熟児動脈管開存の施設認定を得ています。2023年から経皮的肺動脈弁留置術も開始しています。

小児科外来は主に専門外来を中心に診療が行われ、血液専門外来を毎週火曜日、血液長期フォローアップ外来を毎週水曜日、循環器外来（成人先天性心疾患外来も併設）を隔週月曜日と毎週金曜日、神経外来を毎週木曜日、腎臓外来を第2、4週木曜日に開設しています。他に、内分泌外来、あゆみ外来、乳児健診外来、予防接種外来、小児心療内科外来も開設しています。2024年の外来件数は8,056件でした。

■ 診療施設の特色

三重大学附属病院は小児科専門医研修施設であるとともに、小児血液・がん専門医研修施設、小児循環器専門医修練施設および小児神経専門医研修施設に認定されています。

また2013年2月には厚生労働省指定の小児がん拠点病院全国15施設の中の1つに指定され、2022年に指定を更新されました。

当科スタッフの取得専門医・指導医は日本小児科学会小児科専門医・指導医、日本血液学会専門医・指

導医、日本がん治療認定機構がん治療認定医、日本小児血液・がん学会専門医・指導医、小児循環器専門医、成人先天性心疾患専門医、新生児専門医、小児神経専門医・指導医、日本人類遺伝学会・臨床遺伝専門医などを有しています。

1956年より小児がん診療を開始し、1973年血液腫瘍専門外来を開設し、1998年から長期フォローアップ外来を開設しています。長期生存している小児がん経験者の健康管理、晩期障害の予防、早期発見、早期治療を他科と連携して実施しています。年間で受診する18歳以上の受診者数は約350名で、治療後10年および20年の受診継続率はそれぞれ88%と52%と大変高率です。

治療終了後の地域機関との連携については地域基幹病院、プライマリーケア医との連携体制が整備されています。2013年9月に設置された小児トータルケアセンターを中心に活動を行っています。県看護協会、医師会、理学療法士会、作業療法士会と連携を踏るとともに、地域在宅支援診療所および訪問看護ステーションが連携窓口となり、受入可能施設の拡充・啓発を行っています。小児がん患者およびその家族が安心して地元地域・自宅に戻れる支援体制が整備されています。

■ 臨床研究等の実績

三重大小児科は、全国的な治療グループである日本小児がんグループ(JCCG)が行う小児血液腫瘍の臨床研究をすべて行い、固形腫瘍においても小児固形癌臨床試験共同機構研究グループに参加しています。

過去5年間の臨床研究実施状況としては造血器腫瘍の多施設共同研究18件、固形腫瘍多施設共同研究6件、ゲノム解析研究4件、小児がん疫学研究4件、三重大学独自の研究9件及びその他3件を実施しています。

現在実施中の三重大小児科の最近の研究としては以下にあげられます。

1. 子どもの「いのちの教育」における小児看護の役割
2. 小児熱性疾患におけるテネイシンCの有用性に関するレトロスペクティブ研究
3. 成人期の川崎病既往者における冠イベントの実態と病態の解明
4. AED導入後の小児、若年成人の院外心原性心停止の実態と予後の解明
5. 小児医療におけるプレパレーションの多様性
6. 骨軟部腫瘍における癌抑制遺伝子 hDLG1 および

関連遺伝子の発現に関する研究

7. サイトカイン産生細胞測定による造血細胞移植後慢性GVHDの評価の研究
8. 進行期神経芽腫における多次元フローサイトメトリー法及びリアルタイムPCR法における微少残存病変(MRD)モニタリングの確立と骨髄転移に関する分子の探索研究
9. 単心室循環症候群の治療管理の質を高めるための研究
10. 重症肺高血圧に対するエビデンスを構築する新規戦略的研究
11. 児童生徒の肺動脈性肺高血圧の早期診断における学校心電図検診の役割
12. 進行期神経芽腫に対するKIRリガンドミスマッチ同種臍帯血移植の有効性に関する研究
13. MLR-ELISPOT法を用いた造血細胞移植における急性GVHDの予測に関する研究
14. 日本Pediatric Interventional Cardiologyデータベースの構築
15. 小児白血病患児と家族の治療中および治療後のQOLに関する縦断研究
16. 進行神経芽腫長期生存例のQOL調査研究
17. 小児期特発性肺動脈性肺高血圧の早期診断における学校心臓検診の役割
18. 小児心疾患に対するカテーテル治療の全国登録研究
19. 終末期小児がん患児の療養場所に関する支援について
20. 小児白血病研究会(JACLS)参加施設における小児血液腫瘍性疾患を対象にした前方視的疫学研究

<https://www.hosp.mie-u.ac.jp/section/shounika/> (ホームページ)

<https://www.sv.hosp.mie-u.ac.jp/pediatrics/> (三重大小児科)